



# EURO Indicators

定例経済指標レポート

ユーロ圏 実質GDP (2007年7-9月期・速報値) 発表日: 2007年11月15日 (木)

～前期比0.7%成長も先行き鈍化へ～

第一生命経済研究所 経済調査部  
副主任エコノミスト 橋本 択摩  
(03-5221-4526)

ユーロ圏実質GDP成長率

	ユーロ圏		ドイツ		フランス		イタリア		スペイン		オランダ	
	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
04年		1.8		0.6		2.3		1.0		3.3		2.2
05年		1.6		1.0		1.7		0.2		3.6		1.5
06年		2.9		3.1		2.2		1.9		3.9		3.0
04年 1Q	0.6	1.6	0.3	0.8	0.5	1.8	0.5	0.8	0.7	2.9	1.4	1.6
2Q	0.4	2.1	▲0.1	1.0	0.8	2.7	0.3	1.3	0.8	3.1	0.2	2.1
3Q	0.3	1.9	▲0.2	0.4	0.3	2.2	0.2	1.3	1.2	3.6	0.5	2.6
4Q	0.3	1.6	0.1	0.1	0.8	2.4	▲0.5	0.6	0.7	3.4	0.2	2.7
05年 1Q	0.3	1.3	0.4	0.2	0.2	2.1	▲0.3	▲0.2	0.9	3.6	▲0.2	0.5
2Q	0.6	1.5	0.3	0.7	0.2	1.5	0.6	0.1	0.9	3.7	0.8	1.6
3Q	0.6	1.7	0.6	1.4	0.6	1.8	0.4	0.3	0.9	3.4	0.9	2.0
4Q	0.4	1.9	0.3	1.6	0.5	1.5	▲0.1	0.7	0.9	3.7	0.7	1.9
06年 1Q	0.9	2.5	0.8	2.1	0.7	2.0	0.8	1.7	0.9	3.7	0.7	3.5
2Q	1.0	2.9	1.3	3.0	0.9	2.7	0.6	1.7	1.1	3.8	1.0	3.1
3Q	0.6	2.9	0.7	3.2	▲0.1	2.1	0.3	1.6	0.9	3.9	0.4	2.8
4Q	0.8	3.3	1.0	3.9	0.5	2.1	1.1	2.8	1.1	4.0	0.8	2.7
07年 1Q	0.8	3.2	0.5	3.6	0.6	1.9	0.3	2.4	1.0	4.1	0.9	2.5
2Q	0.3	2.5	0.3	2.5	0.3	1.4	0.1	1.8	0.9	4.0	0.2	2.6
3Q	0.7	2.6	0.7	2.5	0.7	2.1	0.4	1.9	0.7	3.8	1.8	4.1

(出所) Reuters EcoWin

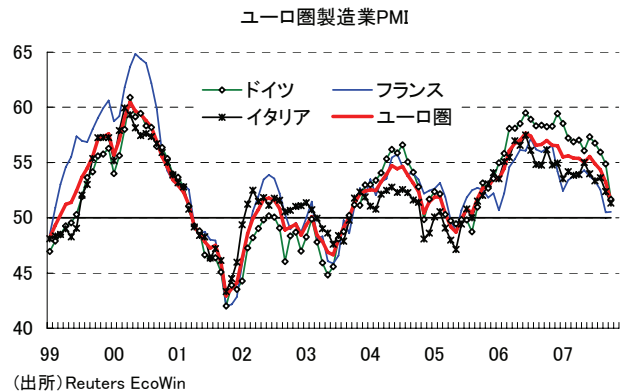
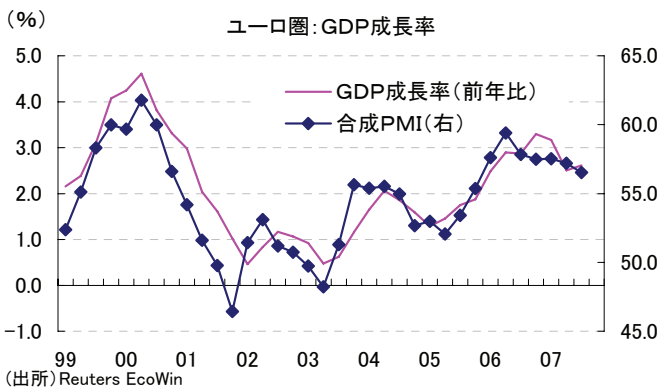
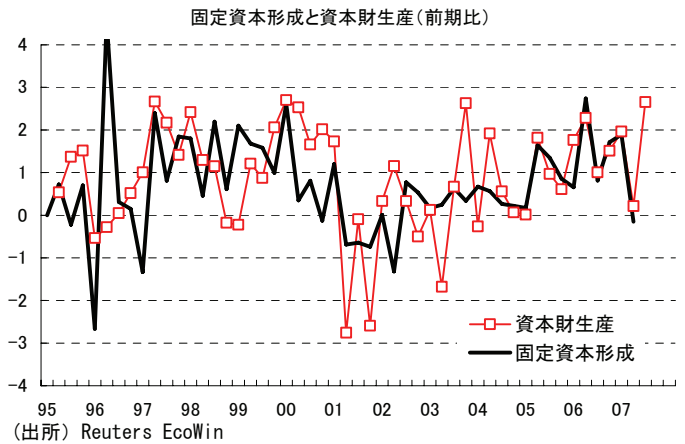
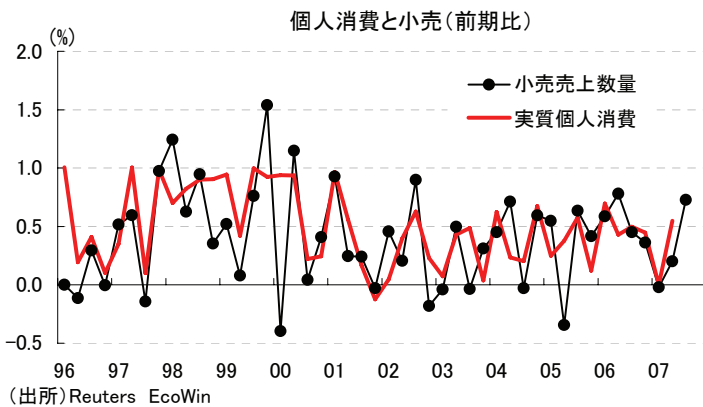
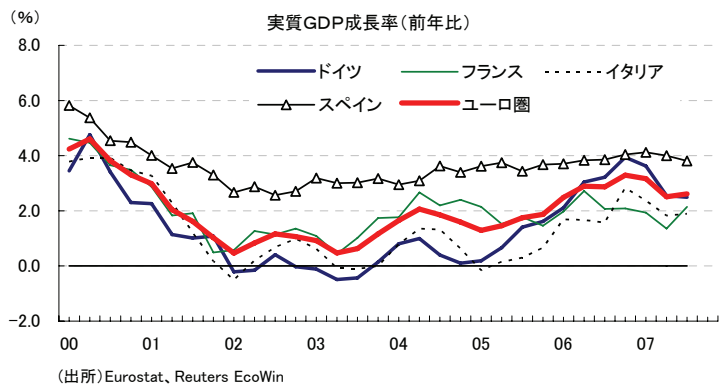
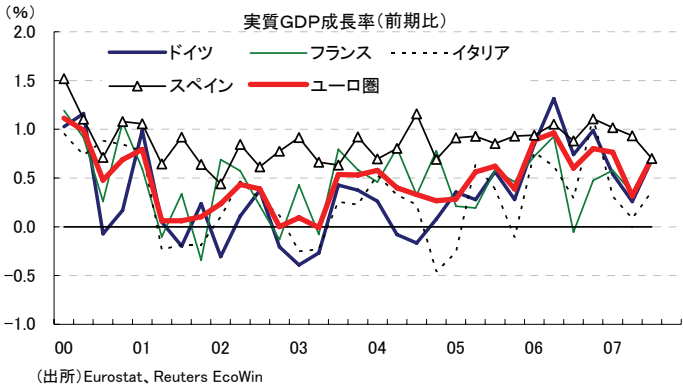
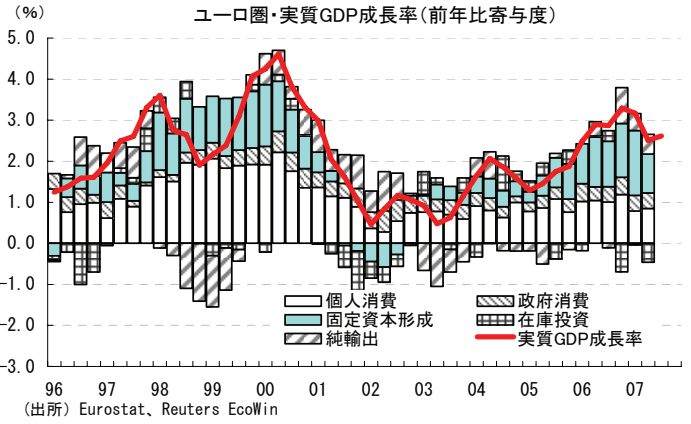
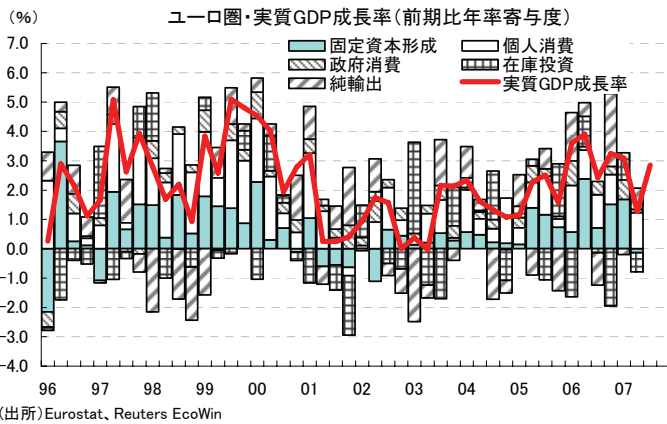
7-9月期のユーロ圏実質GDP成長率(速報値)は、前期比+0.7%、前年比+2.6%となり、前期比+0.3%であった4-6月期から伸びが加速した。国別にみても、ドイツ、フランスともに前期比+0.7%となるなど、主要国で高い伸びとなった。需要項目別内訳は速報値の段階では発表されていないため、月次の統計などにより推測すると、4-6月期に前期比▲0.2%とマイナスに転じた固定資本投資は、その反動もあって好調であったことに加え、個人消費もある程度高い伸びを示したことで成長に寄与したことが窺える(需要項目別の詳細は11月30日公表予定)。

ユーロ圏で最も大きなシェアを占めるドイツの実質GDP成長率について、ドイツ連邦統計庁は、建設投資、設備投資ともに高い伸びとなり、また個人消費も緩やかな増加となるなど、内需が7-9月期の伸びを牽引したとコメントしている。なお、ドイツの外需については、輸入の顕著な増加により成長には寄与しなかったとも述べている。一方、内訳を発表しているフランスについて数値を確認すると、個人消費は前期比+0.8%と高い伸びとなったが、固定資本投資については同+0.6%の伸びにとどまった。もっともフランスについてはドイツと異なり、4-6月期も前期比+0.4%とプラスであったことも勘案すると(ドイツの4-6月期固定資本投資は同▲1.3%)、好調を持続したと判断すべきだろう。また、外需については、ユーロ高にもかかわらず輸出が同+1.7%と伸びが加速した一方、輸入も同+1.4%と高い伸びとなり、外需寄与は同+0.1%pにとどまっている。

7-9月期の成長率については大方の予想通りであるが、市場の関心は10-12月期以降の経済動向にある。金融市場の混乱、ユーロ高、原油高といった悪材料が多くある中で、ユーロ圏経済の先行き不透明感が高まっている。10月のユーロ圏製造業PMIでは、前月に引き続き大幅に低下して51.5となり、企業活動の拡大と縮小を分ける50も視野に入ってきた。国別にみると特にドイツの低下幅が大きく(54.9→51.7)、1996年の統計開始以来最大の落ち込みとなっている。そのドイツで11月13日に発表された11月ZEW景気期待指数

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

は▲32.5と前月▲18.1から大幅に低下したが、今後発表される11月のPMIやIfoといった景気先行指標についても明確な回復がみられることはないと思われる。金融市場の混乱の影響による銀行の貸出基準の厳格化、ユーロ高および世界経済の先行き不透明感の高まりによる海外需要の鈍化等を背景に、企業の投資活動は今後鈍化を余儀なくされよう。10-12月期および1-3月期のユーロ圏実質GDP成長率は、固定資本投資の低下を受けて潜在成長率(+2.0%)を下回る推移を辿ると見込まれる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。